

ファミリー・キッズ会津若松3では、利用見様やご家族様に寄り添い、一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援をしています。

居場所としての温かさを大切に、“できた”「できたね」を積み重ねて、自己肯定感を高めていけるように。そして自立的に行動できるように、一人ひとりに必要な支援を職員全員で考え、5領域で提供します。

① 健康・生活

利用見様の心身の状態を把握します。

トイレ、手洗い、着替え等は視覚支援を利用し、手順を掲示して自立的な行動を促します。

【体温測定、排泄チェック表、コドモン（連絡帳）によるご家庭での様子や、送迎時の学校やご家庭からの申し込みを職員間で共有】

② 運動・感覚

毎日ラジオ体操を行い、体と心の準備をします。

小集団活動では、蹴る・投げる・ジャンプなどの粗大運動やバランスゲーム等の姿勢保持、つまむ・紐を通す等の指先トレーニング等、様々な発達課題を設定しています。個々の発達段階に応じて手添えや介助等の支援を行い、みんなが活動に取り組むことができる工夫をします。

③ 認知・行動

構造化や視覚的なものを手掛かりに、すべきことを理解し、自ら行動できるように支援します。困った行動が起きた時は、気持ちを共有し、適切な行動を促します。療育終了後のモニタリング会議で原因等を職員全員で考え、今後の支援について共通の認識を持って対応します。

・その日のスケジュールの確認、時間の概念と、活動からの切り替え等の認知形成

【文字とイラストによるスケジュールの提示・所外療育のスケジュール・片付けボックス・個別の座るシート】

・小集団のゲームで適切な行動形成

・粘土、スライム、ブロック遊び等様々な感覚を経験できる活動や遊び

・季節の変化への興味の感性形成のための外出、制作活動

④ 言語・コミュニケーション

意志決定、選択、ヘルプを出す、気持ちの表出等、一人ひとりに合ったコミュニケーション方法が身に着くように支援します。

・チョイスボードによる遊びの選択

・身振りや絵カード等、個に応じた意思表示、コミュニケーション支援

【ヘルプカード・チョイスボード】

・場面や状況に合った言葉の表出方法を、視覚支援、職員のモデルや代弁でコミュニケーション支援

⑤ 人間関係・社会性

遊びの幅やお友達との関わりが広がるように職員が介入し、見立て遊びやごっこ遊びを通して、社会性の発達を促します。職員と一緒に遊びながら、他者と関わる上でのルール(貸し借り、挨拶等)を伝えます。必要に

応じて視覚支援を伝えます。

・ルールを学ぶ遊びや小集団活動

・所外療育で地域の施設、工場などへの社会見学、買い物学習、地域行事への参加を通して社会経験を重ねる

職員一同、お子様や保護者様に寄り添い、一人ひとりにあった支援を行っています。

心配なことや不安なことがありましたら、ご見学、ご相談をお受けしますので、お問い合わせください。